

1. 評価結果概要表

平成 21 年 2 月 23 日

【評価実施概要】

事業所番号	0177400322		
法人名	医療法人 アンリー・デュナン会		
事業所名	グループホーム 忘れな草		
所在地	深川市4条12番7号 (電話) 0164-26-2611		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年12月5日	評価確定日	平成21年2月23日

【情報提供票より】 (20年12月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 4 月 1 日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	27 人 常勤 25人, 非常勤 2人, 常勤換算 6 人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り
	3階建ての ~ 全階部分 (1~3)

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250 円		
その他の経費(月額)	水道光熱代 18,900円 暖房代 3,150円(11~4月)		
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,365 円		

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	25 名	男性 8 名	女性 17 名
要介護1	6 名	要介護2	9 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	3 名	要支援2	名
年齢	平均 85.3 歳	最低 73 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	深川第一病院・深川第一病院歯科口腔外科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

深川駅から徒歩10分程の街の中心に位置した3階建ての3ユニットの事業所である。「ゆっくりと、その人の望むように、この地域で暮らせる」の理念に沿うように、管理者、職員は、在宅生活の延長として、ゆったりと暖かい雰囲気の中で、個人を尊重したケアを実践提供出来るように日々努力をしている。何よりも利用者の表情がそれを物語っている。地域住民との協力体制も整っている。職員は良い意味の緊張感を持っていて、利用者に対する礼節とケアが確保された温かい雰囲気の事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善項目については職員が全員で検討し改善されている。三階からの避難器具及び設備は継続検討中である。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義や目的を職員は十分理解しており、各ユニットごとに意見討議を行ない取りまとめ最終的に管理者が作成している。運営推進委員会にも報告し、利用者へのサービスの向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1度開催され、事業所の現状、利用者の状況を報告すると共に、外部評価の取組みについても報告し運営会議にモニター役を担って頂き、協力関係うを築き、運営に反映させて、ケアに活かすよう取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に気軽に意見・要望が言い易いように雰囲気作りに配慮し、声かけを行なっている。表出されて意見、要望については、運営に反映させている。玄関には「意見箱」も設置している。更に、市町村から派遣される介護相談員を2回受け入れ、利用者や職員が相談できる体制が取られている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者全員が町内会に加入し、地域の一員として散歩時には気軽に地元の方々とも挨拶を交わし、老人会など催しの誘いを受けたり、事業所での行事に地元の方々の参加を頂きながら交流を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくりと、その人の望むようにこの地域で暮らせる」との理念を掲げ、その人らしい暮らしが継続できるよう、実現に向け日々取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は各ユニットごとに毎朝のミーティングで唱和し、理念を共有し、理解を深めている。特に入居者の健康に関する日々の注意に心傾け、ケアサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者全員が町内会に加入し、地域の一員として散歩時には気軽に地元の方々とも挨拶を交わし、老人会など催しの誘いを受けたり、事業所での行事に地元の方々の参加を頂きながら交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を職員は十分理解しており、各ユニットごとに意見討議を行ない取りまとめ最終的に管理者が作成している。運営推進会議にも報告し、利用者へのサービスの向上に活かすよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催され、事業所の現状、利用者の状況を報告すると共に、外部評価の取り組みについても報告し運営会議にモニター役を担って頂き、協力関係を築き、運営に反映させてケアに活かすよう取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは情報の提供や、研修の案内など共にサービスの向上に生かせる意見交換を行なうなど、良好な協働関係が作られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者個々の健康状態や暮らしぶりが伝わる写真を沿えて近況報告を手書きのお便りで伝えている。金銭管理の報告も詳しく行なわれている。ただ、職員の異動についての情報は伝えていない。	○	本人や家族にとって職員の異動は気になる場所である。本人や家族と早く顔馴染みになる様に、お便りを発行する際に、情報を掲載して報告する事が望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、気軽に意見や要望を言い易いように雰囲気作りに配慮し、声掛けをしている。表出された意見、要望については運営に反映させている。玄関には「意見箱」も設置している。更に、市町村から派遣される介護職員を年2回受け入れ、利用者や職員が相談できる体制が取られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが、変わらない支援を利用者が受けられるよう、職員交代時の利用者にも与えるダメージの軽減や安心感への配慮を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成が、質の高いケア実践に繋がることを理解している。外部研修については、職員の段階に応じた研修参加の計画を立て積極的に提供している。内部研修についても毎月行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修・交流や保健所関係の研修などに参加し、職員のスキルアップと事業所のサービスの質向上に繋がる取り組みを行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には本人、家族共に事業所を見学して頂き、話し合いの時間を持ち納得頂いてからサービスの利用ができる様に十分な工夫や配慮を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとり役割を持っている。職員は、利用者には人生の先輩として敬意をもって接し、利用者から教えて頂くことが多く、心を寄せて支えあう毎日が続いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人に担当の職員を決め、何気ない言葉や表情などを捉え、思いや意向の把握に努めている。センター方式を活用し、知り得た情報はミーティングで共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者の担当制を取りいれており、日頃の生活の様子から基本プランを提出し、利用者に沿った介護計画を作成している。家族には前回の計画の評価と共に送付し、確認を頂き同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎の定期見直し期間を設定しているが、本人、家族の意見、希望を取り入れ、随時話し合い臨機応変な対応で行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて柔軟な支援を行なっている。医療連携体制を実施し、看護師による健康管理や病院の送迎、在宅時からのサークル活動へ参加支援、自宅への外出支援など柔軟な支援に努めている。情報提供に支援に際しての費用が記されているが、特別以外請求していない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、利用者の希望に沿って、かかりつけ医の受診は定期的に行ない、適切な医療が受けられる支援に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は利用者が重度化した場合や終末期に向けての「看取りに関する考え方と方針」のマニュアルを作成し、入居の契約時に渡して説明を行なっている。早い段階から家族の意向を伺い、話し合っ方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの心理面に配慮し、プライバシーを守ることに心がけている。記録は事務室に保管され、個人情報の管理を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの生活ペースを尊重し希望に添った日々の暮らしを、在りのままに支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みを取り入れて作成されている。食事に関する準備、後片付けも利用者の力を活かし職員と一緒にこなしている。食事中も楽しい会話を交わしながら、なごやかな風景が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて毎日入浴できる体制である。利用者の体調に合わせて、見守りや介助などの入浴支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのペースに沿いながら、編み物や縫い物などの楽しみごとがあり、利用者の力量に合わせて支援をしている。又役割も好みによって持っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は外気に触れる重要性理解しており、利用者一人ひとりの、その日の体調を考慮しながら、散歩、買い物、通院など希望に沿って支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事の弊害を理解しており、夜間のみ施錠し、日中は鍵をかけない生活が定着し、職員は利用者の自由で安全な暮らしの維持に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的に年2回実施しており、近隣住民とも話し合い、協力体制が築かれている。AEDも設置されており、食料も備蓄されている。	○	当事業所は3ユニット有り、3階建てビルの構造上、避難訓練において、利用者の安全をより確実なものとする為には、更なる具体的な避難誘導策を検討する事が望まれる。AEDの使用訓練も期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は体重、体調による目安量が決められていて、摂取量は記録されている。	○	献立の偏りがある訳ではないが、専門的観点から栄養士によるアドバイスを受ける機会を確保し、摂取カロリーや栄養バランスの把握に努める取り組みを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、広くゆったりとしたスペースに、ソファが配置されてくつろげる場となっている。利用者は家庭にあるように過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッド、戸棚付テーブルや広い納戸があり整理しやすくなっている。好みの写真や家族の作品など居心地よい場作りに役立っている。		

※  は、重点項目。